

Review 特集：江戸城本丸

1. 1860年（万延元年）新築された「万延度本丸御殿」のCG復元（監修・執筆平井聖・小粥祐子）よみがえる江戸城（NHK出版）は、平成20年（2008）平成26年（2014）の6年にわたり、行われてきた昭和女子大学と江戸城本丸御殿の映像的復元のため基礎研究の成果と云われています。
2. この共同研究は、東京都立図書館の全面的な協力を戴きながら、東京国立博物館・清水建設ほかいくつかの施設に所蔵されている資料を参照させていただき、「万延元年（1860年）11月9日に将軍が移った新築御殿、いわゆる「万延度本丸御殿」を出来る限りの資料に基づいて、再現しようという試みです。大工達が残した図面を読み解き読み解いて、現在通常使われている形式の建築図面に置き換える作業に携わりました。そして、その図面を基にNHK側で、CGによって本丸御殿の三次元の画像を製作するという協働作業です。これらの資料を残した甲良家は万延度の本丸御殿の作事に幕府作事方大棟梁として当時の大棟梁甲良棟全は、儀式・対面の場であった表及び将軍が使っていた中奥を担当しています。
3. 東京都立図書館の甲良家文書では「万延度の江戸城本丸御殿」の作事に関わる資料で現在まで残っている江戸時代の大工文書の中の白眉といえるもので、1987年国の重要文化財に指定されています。江戸城の第一人者である平井聖東京工業大学名誉教授が、それに基づき6年の歳月をかけて研究しCGをNHKが作成し、放映されたNHKスペシャル中では平井聖先生は「直ぐに復元できますよ。」と明言されています。先生は、2020年江戸城天守模型も監修されています。
4. 「よみがえる江戸城（NHK出版）監修・執筆 平井聖・小粥祐子・昭和女子大学協力・NHK」小粥祐子先生は2019年8月、当会のセミナー「江戸城本丸御殿のインテリア（意匠）」で講演され、大変に好評でした。

4-1. 表（おもて）

- 玄関・虎の間（げんかん・とらのま）：
本丸への正式な出入り口
- 大広間（おおひろま）：
最高格式の儀式空間
- 松の廊下（まつのろうか）：
歴史の舞台になった廊下
- 白書院（しろしょいん）：
大広間に次ぐ正式な場
- 竹の廊下（たけのろうか）：
白書院余黒書院を結ぶ廊下
- 黒書院（くろしょいん）：
より日常的な応接間

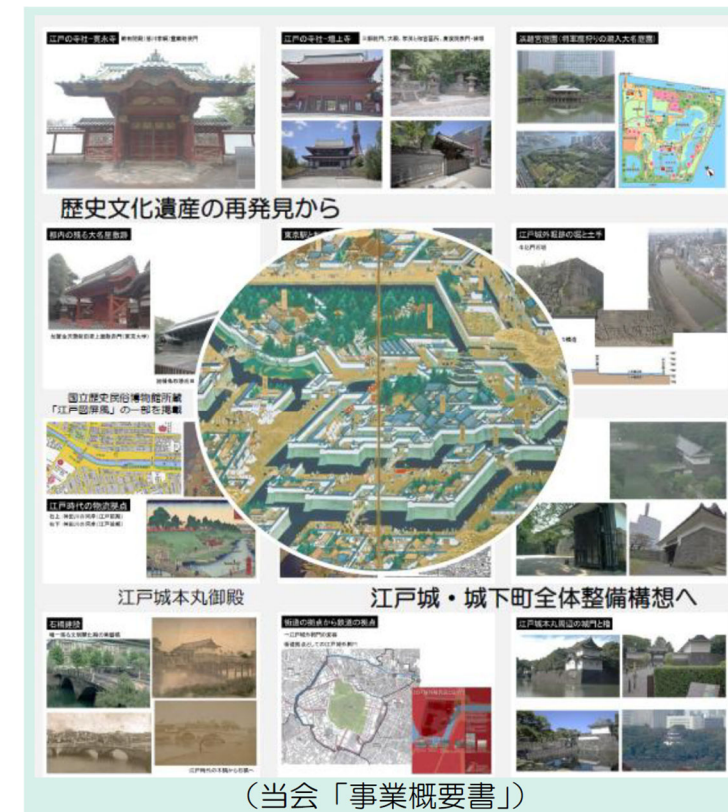
4-2. 中奥（なかおく）

- 御座の間（ござのま）：
将軍の執務室
- 御休息（ごきゅうそく）：
将軍の日常生活の場
- 御小座敷（おこざしき）：
将軍が身支度をする居間



特別企画：当会の運動展開

- 天守単体から江戸城全体整備構想、その先に世界遺産を展望 -



（当会「事業概要書」）

2017年 構想の転回

当会は2004年市民団体（後のNPO法人）江戸城再建を目指す会として設立し、2011年から天守再建等の研究を進め、2017年（平成29年1月）一財）江戸城天守再建・歴史まちづくりルネッサンスの会を設立、次のステップである天守の台座の研究に着手する中、特別史跡江戸城跡に存在する台座の上の天守建築は学術的、法的並びに国際憲章、歴史的及び文化的に極めて難題が多いことが判明し、行政及び専門機関、学識者を含めた国内外の広範囲な合意形成は困難であり、天守建築は不可能に近いとの結論に至りました。

同年10月「本丸御殿を含む江戸城全体整備構想」を視野に入れた本格的な学術調査研究が必須であるとの認識を深め、即ち「天守単体の再建から本丸御殿を含む江戸城全体整備構想並びに歴史文化まちづくりを目指す」構想へと転回するに至り、次ページのビジョンを策定しています。

（詳細はHPフロントページに掲載2017年の転換）

2018年には、近未来の世界遺産登録も視野に入れて、我が国の文化芸術の振興並びに健全な街づくりの発展に寄与することを目的に活動を進めています。

次ページではそのステップと展望イメージをまとめましたのでぜひご覧ください。

近未来の世界遺産を目指す 江戸東京歴史文化まちづくり展開構想

世界の人々と一緒に進もう！2030 Sustainable Development Goals 持続可能な地球社会を目指す
 国連は、すべての人々が平和と豊かさを享受できるような世界にすることを目指す普遍的な17の行動目標を国・人々に呼びかけています
 VISION 近未来の世界遺産を目指す世界の人々に提案しよう！近未来とは予測可能な数十年先の未来

私達は、2004年に市民団体「江戸城再建を目指す会」（後のNPO法人）を創立して以来、事業と運動の共創による一体的発展を目指し2017年一般財団法人を設立し、同年、「江戸東京歴史文化ルネッサンス・ビジョン基本計画」を通して「天守再建は不可能に近いとの所見」を発表、「本丸御殿の復元検討を含む江戸城全体整備構想の策定」が必須であると転回して参りました。（詳細はHPフロントページに掲載*2017年の転回）
 2021年には、「VISION3032」を策定し、以降、旧江戸城及び城下町の歴史文化遺産の文化価値を活かした観光まちづくりについて調査研究の成果及び今日的意義の普及活動を進め、自治体や関係者及び関係機関に提言活動を推進しています。それらを通して、我が国の文化芸術の振興並びに都市東京の歴史文化まちづくりの健全な発展に寄与することを目的としています。

2024年さらなる提言・コミュニケーション活動を拡充

江戸東京の歴史遺産を世界遺産登録へ（東京都 2024年中長期計画・未来戦略）
 江戸東京の歴史や文化財を俯瞰する基本方針「大綱」を策定中（東京都教育庁 2024年）
 歴史的建造物群の保全等 都及び千代田区等・江戸城に関連する8区・文化財保存活用地域計画を順次策定

巨大城郭都市東京
まちづくり完成

2022年～ 普及・啓発提言活動 行政・関係機関
 2021年「VISION 2032」策定
 江戸東京歴史文化回廊・調査研究報告書 策定
 2020年 今日的意義の検証 策定
 2020年～ 2021年 調査研究委員会・シンポジウム開催

2017年10月～ 「江戸東京歴史文化ルネッサンス・ビジョン」策定
 *2017年の転回
 天守から江戸城全体構整備構想へ
 2017年1月 財団法人設立

本丸御殿等の復元へ
 歴史的建造物群の保全と復元
 世界遺産登録

自然保護、観光エリアマネジメントなど
 歴史文化まちづくり交流・連携/普及・提言へ
 歴史文化遺産の調査 → ストーリー化 → 観光資源化

- 本丸御殿の復元検討
 - 能舞台・玄関・大広間
 - 黒書院・白書院・松の廊下
 - 歴史文化遺産の保全
 - 石垣、城門等歴史建造物群
- 歴史文化遺産の活用
 - 大名屋敷、歴史建造物群
 - 歴史文化遺産の周辺の景観
 - 道の美装化、自然保護等、
 - 拠点箇所設置、エリアマネジメント

- 歴史文化回廊の観光開発
 - 観光拠点設置
 - 重ね絵（現代と江戸）
 - 見る・食べる・遊ぶ
- 歴史文化まちづくり交流
 - 情報データの蓄積
 - まちづくりの先例に学ぶ
 - ラウンドテーブルの検討

- 歴史と伝統を反映した人々の営み、生活、活動
 - 産業や技術の継承
 - 伝承資料、物語
 - 地域に根差した産学官民の活動（市民、コミュニティ、大学、民間団体・自治体、関連官庁）

- 歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地
 - 守られてきた文化財及びその周辺の地域
 - 埋もれている歴史文化遺産の発見
 - 失われた歴史文化遺産の復元・活用
 - 景観、環境、自然保護

歴史的風致維持向上計画
 江戸時代を中心に明治・大正・昭和に至る歴史上重要な建造物及び周辺の市街と人々の営み、生活や活動が一体となった「歴史的風致」
 それらの維持及び向上により個性豊かな地域社会の実現、都市の健全な発展と文化の向上に寄与

●●●● 歴史文化遺産の調査、復元検討・環境整備
 ●●●● 歴史文化遺産の物語化→観光資源化
 ●●●● 歴史文化まちづくり交流・連携/普及・提言